



# アジア太平洋 WONCA 会議に参加して

日本プライマリ・ケア学会・国際交流委員会

- 会長 板東 浩
- 副会長 小林 之誠
- 副会長 川久保 亮
- 副会長 青山 英康
- 副会長 小松 真一
- 副会長 空地 啓一
- 山田隆司 葛西龍樹

## 学会の概要

本邦では、近年、プライマリ・ケアの必要性が強く叫ばれている。一方、諸外国では、プライマリ・ケアを担う家庭医は各国で重要な地位を占め、家庭医が集う世界的学会として、World Organization of Family Doctors (WONCA) が早くから活発な国際的活動を行っている。日本プライマリ・ケア学会はわが国を代表する WONCA の構成メンバーとして、アジア太平洋地域では指導的役割を担っている。先般、WONCA アジア太平洋地域国際会議が、一九九七年八月三〇〜九月三日に韓国・ソウルで開催されたので、概要を報告する。

病分類」の利用は日常業務に非常に有用であると考えられ、読者の先生方には是非ともお勧めしたい。

## 各国の交流

今回は早朝から夜遅くまで、テーマを決めてそれぞれの会場で各国の家庭医と活発に議論し、夜には Welcome Reception, Korean Night, Conference Dinner などのパーティーもあり、国際交流を十分に経験できた。これらのプログラムの企画と運営はスムーズに行われ、高く評価される。特に、Cultural Evening では約一〇カ国からの歌や踊りの performance が行われ、本邦からは日本プライマリ・ケア学会のマークがプリントされた浴衣に身を包み、全員で阿波踊りを披露した。嬉しいことに、日本プライマリ・ケア学会が一等賞を与えられた。これも国際的に貢献したことになり幸いである。

ライマリ・ケア学会からは、会長、医学会長、副会長、国際交流委員会のメンバーなど、約四〇名の会員が出席した。

## 教育講演・ワークショップ

WONCA 会議のテーマは「家庭医療学：新しい時代に向かう多様性と調和」。様々な基調講演や教育講演の中で、家庭医療学の祖でもある Robert B. Taylor 氏は、各国における家庭医療学の位置づけは今後変化し、医療政策と協調しながら独自性を発揮していくことになるだろう、と今後の展開を予想した。またワークショップ「家庭の役割」では、アジアの発展途上国や先進国、欧米の国々における現状が報告された。国により事情は異なるが、「医療の基盤は家庭である」という共通の認識こそが、地域や伝統を越える相互理解に必要であるとの意見が出された。最終日は Evidence-based medicine と Practice-based research を基本とする情報社会の中での家庭医の役割が討議された。

日本プライマリ・ケア学会からの発表も多く、シンポジウムやワークショップでは福本、板東、瀧谷、臼井、葛西、石川が、一般演題では山田、和座、窪田、吉村、岩井、白浜の各氏が発表し、青山は座長を務め活発な討論に参加した。

## おわりに

今回の WONCA 会議では、韓国の素晴らしい企画と実行力に感銘を受けた。日本の医療について質問する WONCA 会員は多く、平成九年一月二三日に東京で行われる日本プライマリ・ケア学会二〇周年記念講演会について尋ねる人も少なくなかった。このように、アジア太平洋地域の国々の日本への期待を感じるが、今後日本プライマリ・ケア学会が同地域で果たすべき責任についても検討していく必要がある。

## 国際疾病分類委員会

WONCA では以前より、国際疾病分類 (International Classification of Primary Care ; ICPIC) に関する委員会が活動しているが、その作業は北米、ヨーロッパに偏りがちであった。このたび、アジア太平洋地域では初めて国際疾病分類委員会が開催され、日本、韓国、中国、台湾、マレーシア、フィリピン、マカオ、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポールなどからの出席があり討論を重ねた。今後の目標は、定期的に委員会を開催して ICPIC を中心とした情報を交換し、アジア太平洋地域で分類委員会の活動を広く知らしめ、疾病分類の研究活動の交流センターを開設するよう努力していくこととなった。

なお、先日、日本プライマリ・ケア学会から「プライマリ・ケア国際分類」が発行された(二六二五円+送料、☎〇三(五二八二)九七八一、☎〇三(五二八二)九七八〇)。プライマリ・ケア医あるいは家庭医が多くの患者を診察していく場合、「疾